



法人企業景気予測調査結果 (令和2年7～9月期調査)

【山口県の概要】

目次	ページ
調査要領	1
調査結果概要	2
1. 景況判断	3
2. 企業収益	4
3. 設備投資	6
4. 雇用	7
参考資料	8

令和2年9月11日

財務省中国財務局

山口財務事務所

本調査についての問い合わせ先
財務省中国財務局山口財務事務所
財務課長 山本
TEL:(083) 922 - 2190 (代)
FAX:(083) 925 - 1325
URL: <http://chugoku.mof.go.jp/yamaguchi/index.htm>



山口財務事務所の

ホームページ

[調査要領]

1. 調査の目的と根拠

企業活動の現状と見通しに対する企業経営者の判断を調査し、地域経済情勢を的確に把握するとともに、財政・経済政策運営上の基礎資料を得ることを目的に、統計法に基づく一般統計調査として実施。

2. 調査実施時点

令和2年8月15日

3. 調査対象企業

資本金、出資金または基金(以下、「資本金」という。)1千万円以上(電気・ガス・水道業及び金融業、保険業は1億円以上)の県内所在法人

4. 調査対象期間(時点)

- (1) 判断調査 …………… 令和2年7月から9月(または9月末)の現状(見込み)
令和2年10月から12月(または12月末)の見通し
令和3年1月から3月(または3月末)の見通し
- (2) 計数調査 …………… 令和元年度の実績、令和2年度の実績見込み

5. 調査対象企業数及び回答状況

区 分	業 種 別		規 模 別			合 計
	製 造 業	非 製 造 業	大 企 業	中 堅 企 業	中 小 企 業	
対象企業数	36社	77社	28社	29社	56社	113社
回答企業数	36社	72社	27社	29社	52社	108社
回答率	100%	93.5%	96.4%	100%	92.9%	95.6%

- (注)・大企業 : 資本金10億円以上
・中堅企業 : 資本金1億円以上10億円未満
・中小企業 : 資本金1千万円以上1億円未満

6. 集計方法

判断調査項目、計数調査項目とも単純集計。

7. グラフの見方

- (1) 棒グラフは、回答企業数の構成比または金額の増減率を表す。
(2) 折れ線グラフは、BSI(ビジネス・サーベイ・インデックス)を表す。

(参考)

BSI は、前期と比較した「上昇」または「下降」等の変化方向別の回答社数の構成比から、先行きの経済動向を予測する方法。

- (例) 前期と比べて 「上昇」と回答した企業の構成比・・・40.0%
「不変」と回答した企業の構成比・・・25.0%
「下降」と回答した企業の構成比・・・30.0%
「不明」と回答した企業の構成比・・・ 5.0%

景況判断 BSI=(「上昇」40.0%)-(「下降」30.0%)=10.0%ポイント(「上昇」超)

- (3) 点線の折れ線グラフは、前回調査時(令和2年4月から6月期)の予測を指す。

調査結果概要

1. 景況判断 ～「上昇」超に転じる～

- ・ 現状(令和2年7月から9月期)の景況判断 BSI は 11.1%ポイントと「上昇」超に転じている。
- ・ 先行きは、翌期は「下降」超に転じ、翌々期は「上昇」と「下降」が拮抗する見通しとなっている。

2. 企業収益 ～令和2年度は、減収減益の見込み～

- ・ 売上高は、製造業、非製造業ともに減収となることから、▲8.4%の減収見込みとなっている。
- ・ 経常利益は、製造業、非製造業ともに減益となることから、▲31.5%の減益見込みとなっている。

3. 設備投資 ～令和2年度は、増加の見込み～

- ・ 設備投資は、製造業、非製造業ともに増加することから、12.0%の増加見込みとなっている。

4. 雇用 ～「不足気味」超幅が拡大～

- ・ 現状(令和2年9月末)の従業員数判断 BSI は 14.9%ポイントで、前期(令和2年6月末)に比べ、「不足気味」超幅が拡大している。
- ・ 先行きは、翌期、翌々期ともに「不足気味」超の見通しとなっている。

1. 景況判断

○ 現状判断

- ・ 現状(令和2年7月から9月期)の景況判断BSIは11.1%ポイントと「上昇」超に転じている。
- ・ 業種別にみると、製造業は5.6%ポイント、非製造業は13.9%ポイントといずれも「上昇」超に転じている。
- ・ 規模別にみると、大企業は18.5%ポイントと「上昇」超に転じ、中堅企業は▲3.4%ポイントと「下降」超幅が縮小し、中小企業は15.4%ポイントと「上昇」超に転じている。

○ 先行き見通し

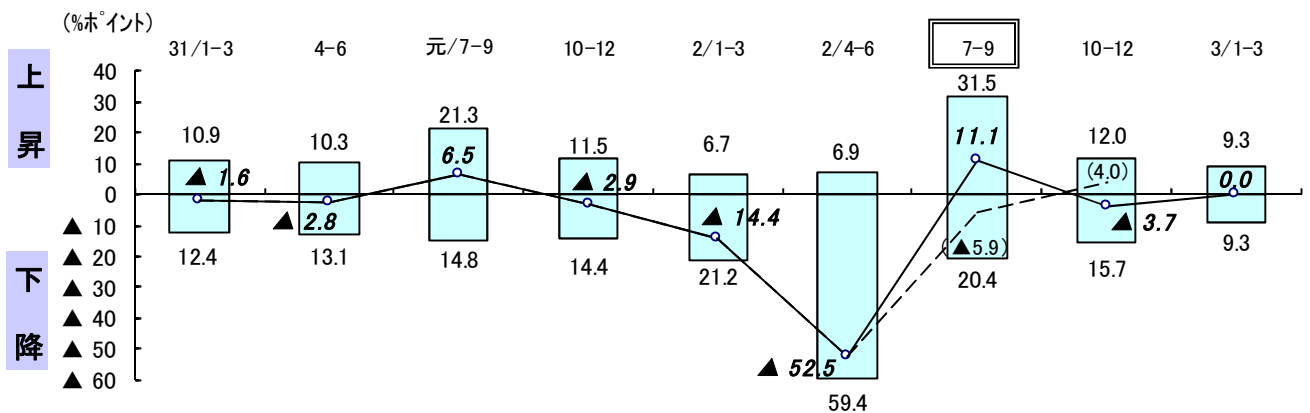
- ・ 翌期(令和2年10月から12月期)は「下降」超に転じる見通しとなっている。
- ・ 業種別にみると、製造業は「上昇」超幅が拡大し、非製造業は「下降」超に転じる見通しとなっている。
- ・ 規模別にみると、大企業は「上昇」超が続き、中堅企業は「下降」超幅が拡大し、中小企業は「下降」超に転じる見通しとなっている。
- ・ 翌々期(令和3年1月から3月期)は「上昇」と「下降」が拮抗する見通しとなっている。

景況判断BSIの推移 (原数値)

(BSI: 前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)

・ 全産業

点線及び()は前回[令和2年4月から6月期]調査時予測
現状判断 ← | | → 見通し



(注) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、構成比の差を表す%ポイントは表記した計数の差と一致しない場合がある。

・ 業種別・規模別

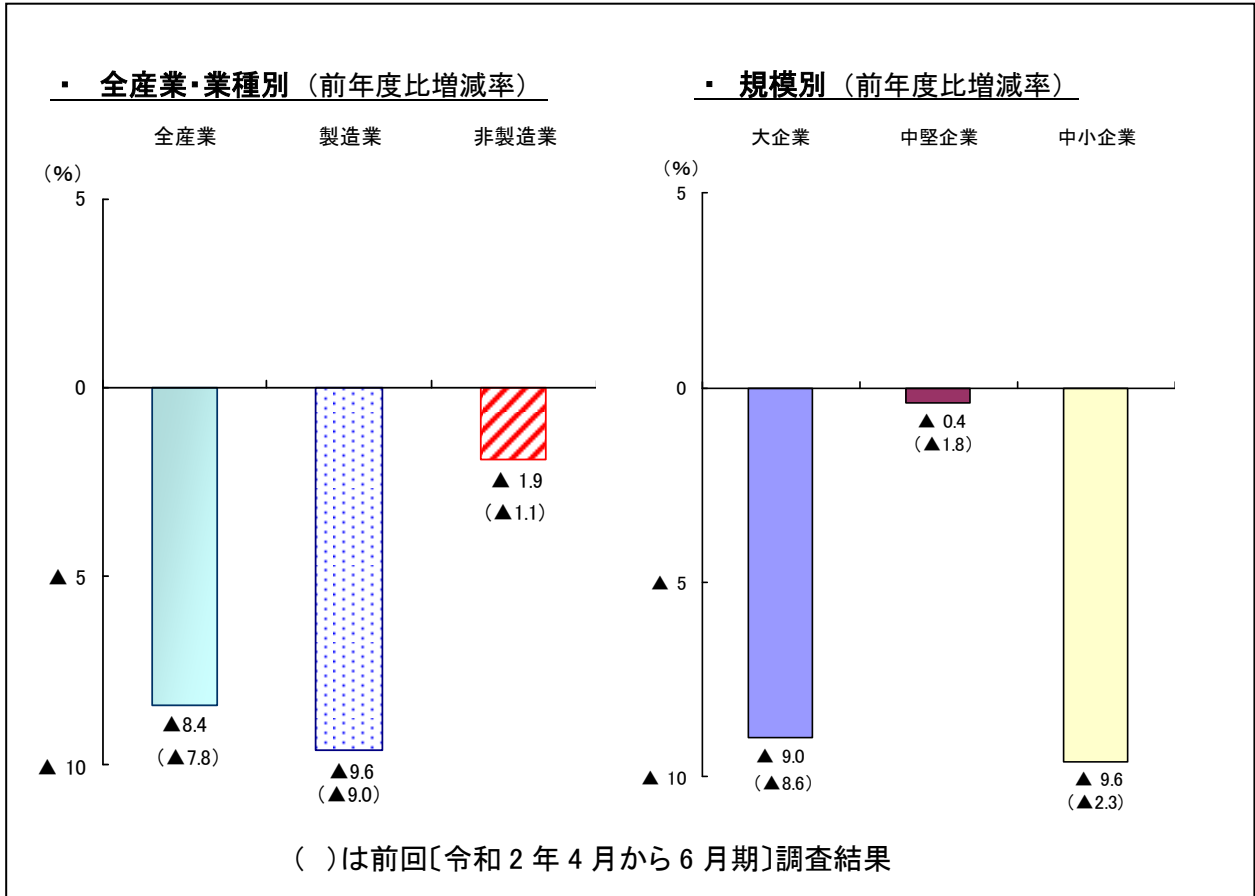
(%ポイント)

区分	前回(2/4-6)調査時予測		今回調査				
	現状判断	2/7-9見通し	2/7-9		10-12見通し	3/1-3見通し	
			現状判断	変化幅			
全産業	▲52.5	▲5.9	11.1	+63.6	▲3.7	0.0	
業種	製造業	▲60.0	0.0	5.6	+65.6	11.1	2.8
	非製造業	▲48.5	▲9.1	13.9	+62.4	▲11.1	▲1.4
規模	大企業	▲63.0	0.0	18.5	+81.5	18.5	7.4
	中堅企業	▲42.3	▲19.2	▲3.4	+38.9	▲13.8	0.0
	中小企業	▲52.1	▲2.1	15.4	+67.5	▲9.6	▲3.8

2. 企業収益

(1) 売上高（回答企業数 75 社：電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を除く）

- 令和2年度の売上高は、前年度比▲8.4%の減収見込みとなっている。
 - 業種別にみると、製造業は、業務用機械などで増収となるものの、石油・石炭、化学などで減収となることから、全体としては▲9.6%の減収見込みとなっている。非製造業は、建設、運輸・郵便などで減収となることから、全体としては▲1.9%の減収見込みとなっている。



<参考>

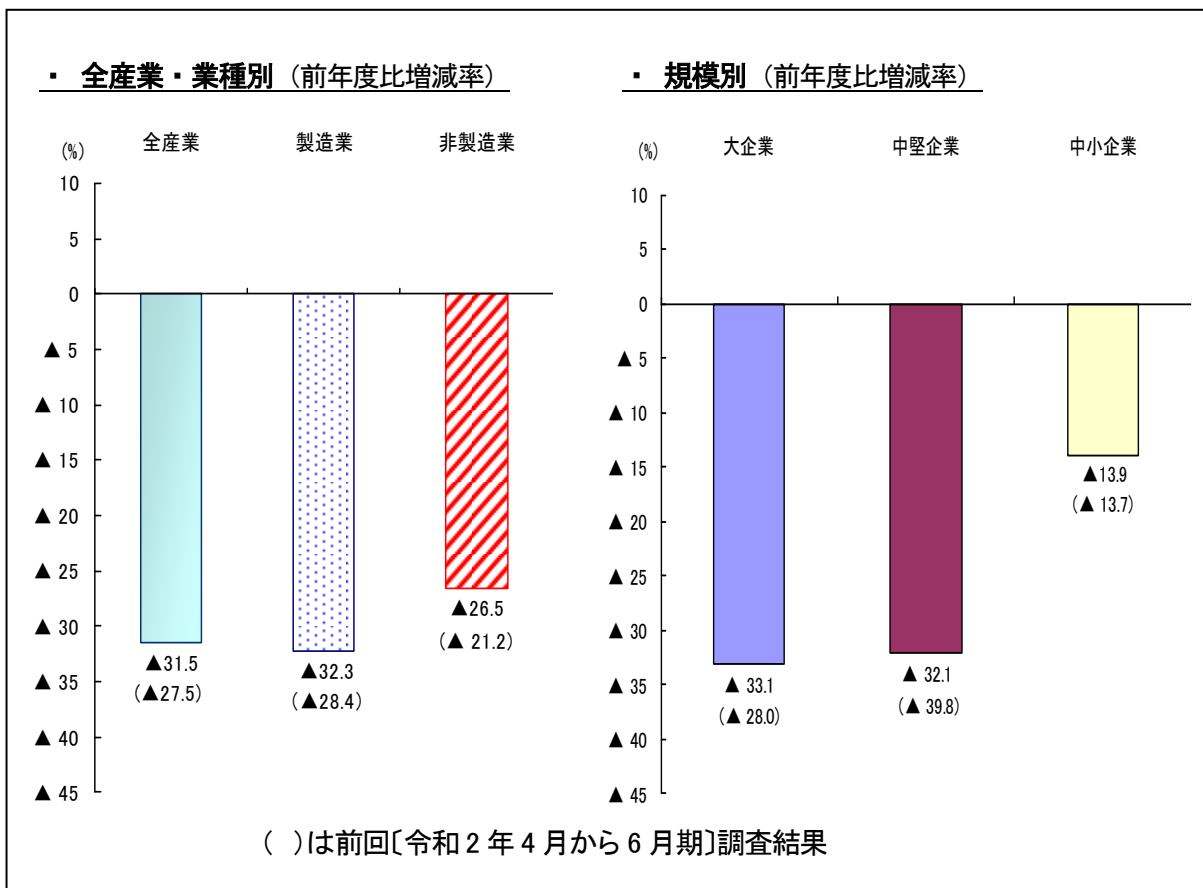
(前年度比増減率、単位：%)

	令和2年度		
	全産業	製造業	非製造業
全産業	[▲ 8.4]		[▲ 1.9]
	▲ 8.4	▲ 9.6	▲ 1.9
大企業	[▲ 9.0]		[▲ 0.0]
	▲ 9.0	▲ 9.6	▲ 0.0
中堅企業	[▲ 0.4]		[▲ 2.7]
	▲ 0.4	10.6	▲ 2.7
中小企業	▲ 9.6	▲ 16.8	▲ 3.9

[] 書は金融業、保険業を除き、電気・ガス・水道業を含む

(2) 経常利益(回答企業数 72 社: 電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を除く)

- 令和2年度の経常利益は、前年度比▲31.5%の減益見込みとなっている。
 - ・ 業種別にみると、製造業は、金属製品などで増益となるものの、化学、窯業・土石などで減益となることから、全体としては▲32.3%の減益見込みとなっている。非製造業は、学術研究・専門・技術サービス、建設などで減益となることから、全体としては▲26.5%の減益見込みとなっている。



<参考>

(前年度比増減率、単位:%)

	令和2年度		
	全産業	製造業	非製造業
全産業	[▲ 27.2]		[▲ 19.4]
	▲ 31.5	▲ 32.3	▲ 26.5
大企業	[▲ 27.7]		[▲ 16.9]
	▲ 33.1	▲ 34.2	▲ 14.5
中堅企業	[▲ 31.9]		[▲ 39.3]
	▲ 32.1	19.4	▲ 39.8
中小企業	▲ 13.9	▲ 13.2	▲ 15.7

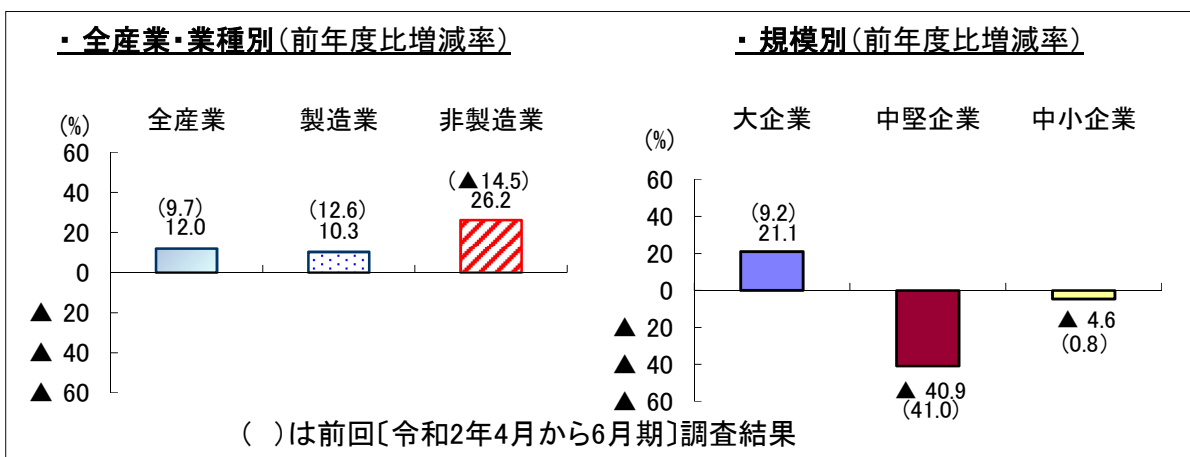
[] 書は電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を含む

3. 設備投資（回答企業数86社：土地購入額を除く、ソフトウェア投資額を含む）

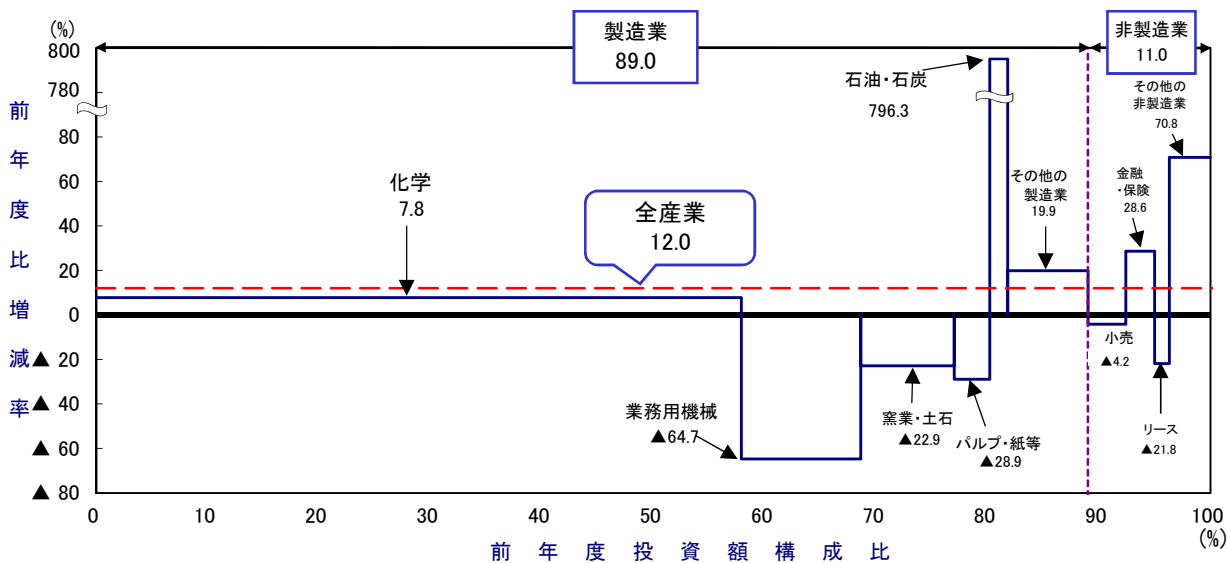
○ 令和2年度の設備投資計画は、前年度比12.0%の増加見込みとなっている。

・ 業種別にみると、製造業は、業務用機械などで減少するものの、石油・石炭、化学などで増加することから、全体としては10.3%の増加見込みとなっている。非製造業は、鉱業・採石等、金融・保険などで増加することから、全体としては26.2%の増加見込みとなっている。

・ 規模別にみると、大企業(21.1%)は増加見込みとなっており、中堅企業(▲40.9%)、中小企業(▲4.6%)は減少見込みとなっている。



・ 主要業種別 設備投資状況(令和2年度)



<参考>

(前年度比増減率、単位:%)

	令和2年度		
	全産業	製造業	非製造業
全産業	12.0	10.3	26.2
大企業	21.1	21.1	21.1
中堅企業	▲40.9	▲63.3	66.0
中小企業	▲4.6	▲13.6	▲1.1

< > 書は土地購入額及びソフトウェア投資額を含む

4. 雇用

○ 現状判断

- ・現状（令和2年9月末）の従業員数判断BSI（回答企業数94社）は14.9%ポイントで、前期（令和2年6月末）に比べ、「不足気味」超幅が拡大している。
- ・業種別にみると、製造業は▲6.3%ポイントと「過剰気味」超幅が縮小しており、非製造業は25.8%ポイントと「不足気味」超幅が拡大している。

○ 先行き見通し

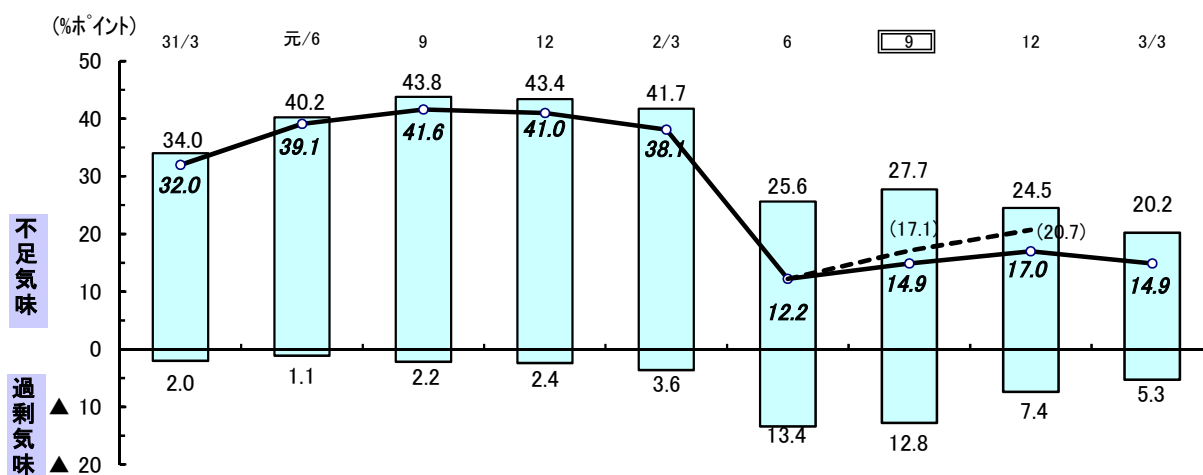
- ・翌期、翌々期は、ともに「不足気味」超の見通しとなっている。

従業員数判断BSIの推移（臨時・パート含む）（原数値）
 （BSI：期末判断「不足気味」－「過剰気味」社数構成比）

・ 全産業（期末判断）

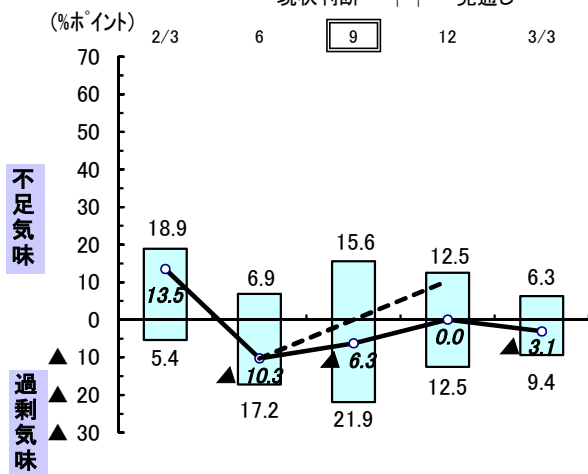
点線及び（ ）は前回〔令和2年4月から6月期〕調査時予測

現状判断 ← | → 見通し



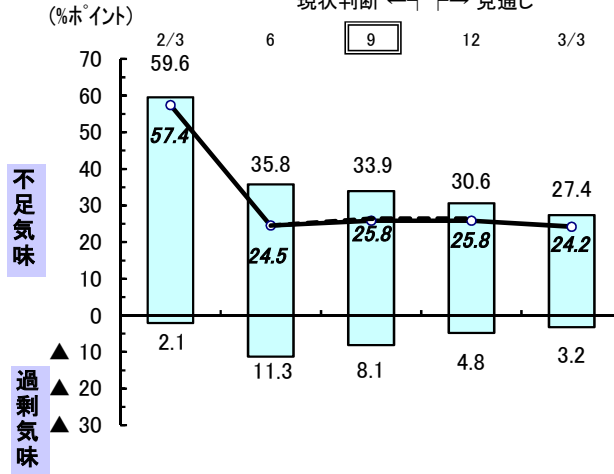
・ 製造業（期末判断）

現状判断 ← | → 見通し



・ 非製造業（期末判断）

現状判断 ← | → 見通し



（注）計数は、それぞれ四捨五入しているため、構成比の差を表す%ポイントは表記した計数の差と一致しない場合がある。

〔参考資料〕

1. 判断調査BSI表(原数値)

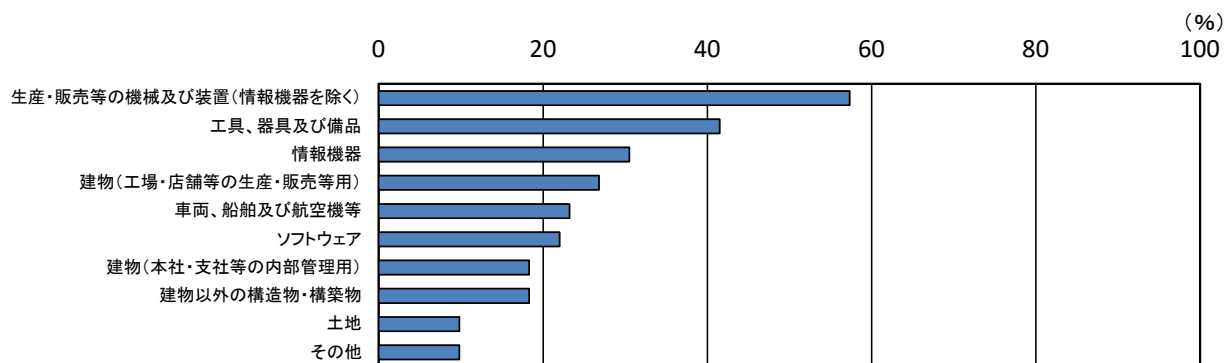
(単位：%ポイント)

		全産業											
		2年			3年			2年			3年		
		7~9 現状	10~12 見通し	1~3 見通し	7~9 現状	10~12 見通し	1~3 見通し	7~9 現状	10~12 見通し	1~3 見通し	7~9 現状	10~12 見通し	1~3 見通し
① 貴社の景況 (「上昇」-「下降」)	全規模合計	11.1	▲ 3.7	0.0	5.6	11.1	2.8	13.9	▲ 11.1	▲ 1.4			
	大企業	18.5	18.5	7.4	11.1	22.2	11.1	33.3	11.1	0.0			
	中堅企業	▲ 3.4	▲ 13.8	0.0	0.0	14.3	▲ 28.6	▲ 4.5	▲ 22.7	9.1			
	中小企業	15.4	▲ 9.6	▲ 3.8	0.0	▲ 9.1	9.1	19.5	▲ 9.8	▲ 7.3			
② 国内の景況 (「上昇」-「下降」)	全規模合計	▲ 20.0	▲ 21.2	▲ 10.6	▲ 6.5	3.2	▲ 6.5	▲ 27.8	▲ 35.2	▲ 13.0			
	大企業	4.0	8.0	8.0	11.8	17.6	5.9	▲ 12.5	▲ 12.5	12.5			
	中堅企業	▲ 25.0	▲ 29.2	0.0	▲ 33.3	▲ 16.7	0.0	▲ 22.2	▲ 33.3	0.0			
	中小企業	▲ 33.3	▲ 36.1	▲ 30.6	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 35.7	▲ 42.9	▲ 28.6			
※ ③ 生産・販売などのための設備 (「不足」-「過大」)	全規模合計	▲ 3.6	▲ 1.2	3.6	▲ 15.6	▲ 9.4	0.0	3.9	3.9	5.9			
	大企業	▲ 13.0	▲ 13.0	0.0	▲ 17.6	▲ 17.6	0.0	0.0	0.0	0.0			
	中堅企業	4.0	8.0	12.0	14.3	28.6	28.6	0.0	0.0	5.6			
	中小企業	▲ 2.9	0.0	0.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 25.0	7.4	7.4	7.4			
※ ④ 従業員数 (「不足気味」-「過剰気味」)	全規模合計	14.9	17.0	14.9	▲ 6.3	0.0	▲ 3.1	25.8	25.8	24.2			
	大企業	▲ 8.0	0.0	4.0	▲ 23.5	▲ 11.8	▲ 5.9	25.0	25.0	25.0			
	中堅企業	16.0	16.0	12.0	28.6	28.6	14.3	11.1	11.1	11.1			
	中小企業	27.3	27.3	22.7	0.0	0.0	▲ 12.5	33.3	33.3	30.6			

- ・ BSI表の例：①貴社の景況 = 直前の四半期に比べて「上昇」と回答した企業の割合(%) - 「下降」と回答した企業の割合(%)
- ・ ※は期末判断項目

2. 今年度における設備投資の対象

※10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。



3. 大規模災害や感染症等による事業中断リスクに備えた取組

※10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。

